

きゅうでんのいちいせき

久田野Ⅰ遺跡は市内東部、北上川とその支流・猿ヶ石

しりゅう さるがいし

しゅうへん じょうもん

川にはさまれた台地上にあります。周辺には縄文時代中

あと

きゅうでんの いせき

い

期の大きな集落跡として知られる久田野Ⅱ遺跡などの遺

せき みっしゅう

いったい

じょうもんいせきぐん

跡が密集しており、一帯は市内でも有数の縄文遺跡群と

なっています。

はくつちょうさ

やく

これまでの発掘調査では、今から約 4,500 ～ 4,000 年

じょうもん

たてあなじゅうきよあと

とう

おと

あなじょういこう

前の縄文時代中期後半の竪穴住居跡 3 棟や陥し穴状遺構

き

とく

しゃめん

11 基ほかが見つかり、特に北西向きの斜面部

じゅうきよあと

から見つかった住居跡に

ふくしきろ

とくちょう

は複式炉とよばれる特徴

てき ろあと じゅうきよ かべ

的な炉跡（住居内部の壁

ぎわ いしじき ほりこみ ど

際近くに石敷の掘込と土

き う ろ つづ

器を埋めた炉が続くもの）

があり、注目されます。



平成 5 年度調査 竪穴住居跡

平成 5 年度調査 住居内の複式炉

